

# 小児循環器・周産期部門（産婦人科コース）専門修練医コース

## 概要

下記の臨床項目を自己の責任において実施でき、かつレジデント・研修医の指導ができることを目的とする。また、下記の項目の臨床研究上のテーマを自ら見出し、科学的な研究計画を立て実施できる能力を求める。

1. 循環器疾患合併妊娠の管理方針の決定と分娩管理
2. 胎児胎盤系循環異常の早期発見・管理・治療
3. 胎児病の早期発見と個々の病態にあわせた管理方針の決定
4. 産科的手術の習熟および胎児治療
5. 胎児期から連続した病的新生児、超未熟児の管理

## 専門医資格

日本産科婦人科学会専門医、日本超音波医学会専門医

## 主な検査・治療手技

	目標数
胎児採血	10
胎児治療、胎児治療例新生児管理	5
胎児水腫、超未熟児、重症仮死児などの高度な新生児管理	10

## 研修方法

- 1) 臨床
  - 重症循環器疾患合併妊娠の管理、救急対応の習得
  - 病的胎児の管理方針の決定と治療法の習得
  - 周産期異常、超未熟児に対する組織的・地域的管理の習得を習得するとともに、下記について研修を行う。
    1. 重症循環器病合併妊娠の全体的対応と緊急時の組織運営
    2. 胎児病の外科的・内科的治療
    3. コンピュータ通信技術を用いた周産期異常のマスクリーニング

4. 動物を用いた胎児治療のシミュレーション
5. 医用超音波により胎児循環異常、胎児心疾患診断の制度向上
6. 病棟カンファレンスの運営
7. 国際学会発表、欧文による論文発表

## 2) 臨床研究

現在の周産期医療の問題点、未解決点を自ら把握し、研究計画を実施する。具体的な方法論として下記の手段が直ちに取り得る。

1. 情報工学的手法
2. 医用超音波、カテーテル技術、診断的放射線、MR 等の利用
3. 胎児採血、胎児穿刺、胎児手術手技の利用
4. 動物を用いた病態生理学的手法

## 3) 患者受持

子宮内発育遅延 5例、胎児水腫 5例、胎児異常 5例、重症母体心疾患 5例、超未熟児 5例、重症胎児仮死 5例、双胎・多胎 3例など

## 4) 検査業務

胎児・産科超音波検査、胎児採血による諸検査

## 5) 当直業務

週平均1回、土曜日曜 平均月1回

### カンファレンス等の週間スケジュール

曜日・時間	内容
週日毎朝	症例検討会 約1時間
週1回	臨床研究・臨床統計検討会
週1回	部長回診